## エクセルを利用した科学計算

一核四極共鳴におけるゼーマン効果と 分子軌道法を用いた電場勾配主軸の解析例—

石原秀太

## Scientific Calculation by Means of Excel: The Case of Study of NQR Zeeman Effect and Determination of EFG Principal Axes

## Hideta ISHIHARA

#### 要 約

表計算ソフト, Microsoft Excel の多様な関数を利用した科学計算は,数多く紹介されている。今回は,エクセルによる実験データの解析が可能であるか検討した。核四極共鳴のゼーマン効果の解析ではFortran 96 for Windows を用いた計算と同等の結果が得られた。ゼーマン効果の実験には,かなりの大きさの単結晶が必要であるが,単結晶が手に入らない場合,結晶構造をもとに電場勾配の主軸系が決定できないか検討した。分子軌道法の結果を利用して,電場勾配主軸を決定した結果は,結晶構造との比較から妥当な結果が得られた。

## § I ゼーマン効果の解析

#### 1. 核四極相互作用のハミルトニアン

原子核は周囲の電荷によって生じる電気ポテン シャルとの相互作用によってエネルギーを生じ る。この核四極相互作用のハミルトニアン H<sub>Q</sub> は、

$$H_Q = \frac{eQ}{2I(2I-1)} (V_{xx}/_x^2 + V_{yy}/_y^2 + V_{zz}/_z^2)$$
(1)

ここで, eQは核四極モーメント, Viiは電場勾配 テンソルの主軸方向の成分, liは核スピン演算子 の電場勾配テンソルの主軸方向成分である。電場 勾配が軸対称でない場合には、次の非対称定数 η を用いる。

$$\eta = \frac{V_{xx} - V_{yy}}{V_{zz}} \tag{2}$$

ただし、 $|V_{zz}| \ge |V_{yy}| \ge |V_{xx}|$ である。また、ラプ ラスの関係式から $V_{xx} + V_{yy} + V_{zz} = 0$ であるから、 これと(2)式から、

$$V_{xx} = (\eta - 1) V_{zz}/2, \qquad V_{yy} = -(\eta + 1) V_{zz}/2$$
 (3)

となる。(3)式を(1)式に代入すると、

$$H_Q = \frac{e^2 q Q}{4I (2I-1)} \left\{ (3/_z^2 - /^2 + \eta (l_x^2 - l_y^2)) \right\}$$
(4)

ここで, *eq* = *V*<sup>22</sup> である。さらに, つぎの上昇演 算子と下降演算子を用いて,

$$/_{+} = /_{x} + i /_{y}, /_{-} = /_{x} - i /_{y}$$
 (5)

(4)式は

$$H_Q = \frac{e^2 q Q}{4I (2I-1)} \left\{ \left( 3/_z^2 - /^2 \right) + \frac{\eta}{2} (/_+^2 + /^2) \right\}$$
(6)

と変形され、エネルギー計算に必要な行列要素は 次のようになる。

$$\langle m | H_Q | m \rangle = A \{ 3m^2 - I (I+1) \}$$

$$\langle m \pm 1 | H_Q | m \rangle = 0$$

$$\langle m \pm 2 | H_Q | m \rangle =$$

$$\frac{A\eta}{2} \{ (I \mp m) (I \pm m+1) (I \mp m-1) (I \pm m+2) \}^{1/2}$$

$$\exists \exists \mathfrak{C}, A = e^2 q Q / 4I (2I-1) \ \mathfrak{C} \not \mathfrak{B} \ \mathfrak{S}_{\circ}$$

核スピン **I** = 3/2 の場合,行列要素は表1のよう になる。

表1 I=3/2の行列要素

т	3/2	-1/2	1/2	- 3/2
3/2	3A	$\sqrt{3}A\eta$	0	0
-1/2	$\sqrt{3}A\eta$	- 3A	0	0
1/2	0	0	- 3A	$\sqrt{3}A\eta$
-3/2	0	0	$\sqrt{3}A\eta$	3A

この行列からエネルギー固有値をもとめると,

$$E_{\pm} = \pm 3A \left(1 + \frac{\eta^2}{3}\right)^{1/2}$$
(8)

となり、これより共鳴周波数は

$$\nu = \frac{E_{+} - E_{-}}{h} = \frac{e^2 q Q}{2h} \left( 1 + \frac{\eta^2}{3} \right)^{1/2} = \nu_Q \rho$$

$$\nu_Q = \frac{e^2 q Q}{2h} \qquad \rho = \left( 1 + \frac{\eta^2}{3} \right)^{1/2}$$
(9)

となり、共鳴線が1本観測されることになる。

#### 2. ゼーマン効果

核スピンI = 3/2の場合,核結合定数 $e^2qQ/h$ と非対称定数 $\eta$ を独立に決定するためには,外部から静磁場をかけてエネルギー準位の縮退をといて,共鳴線を観察するゼーマン効果を用いる。 単結晶を用いた測定について以下に述べる。

一般に磁場の作用によるハミルトニアン $H_M$ は次のようにあらわされる。

$$H_{M} = -\gamma \hbar \left( /_{x} H_{x} + /_{y} H_{y} + /_{z} H_{z} \right) =$$
  
2B (/\_{x} sin \theta cos \varphi + /\_{y} sin \theta sin \varphi + /\_{z} cos \theta ) (10)

ここで, $B = -\gamma \hbar H/2$ ,磁場Hの方向は電場勾 配主軸系における極座標( $\theta$ , $\varphi$ )であらわす。 (10)式を上昇演算子と下降演算子を使って書き直す と,

$$H_M = B \left( /_+ \sin \theta e^{-i\varphi} + /_- \sin \theta e^{i\varphi} + 2/_z \cos \theta \right) \quad (11)$$

となる。磁場の相互作用による行列要素は

 $\langle m | H_M | m \rangle = 2mB \cos \theta$ 

$$\left\langle m \pm 1 \left| H_M \right| m \right\rangle = \tag{12}$$

 $B \{(I \mp m)(I \pm m + 1)\}^{1/2} \sin \theta e^{\pm i\varphi}$ 

となり、I=3/2の場合、表2のようになる。

磁場の影響が小さい場合、〈 $\Psi m$ ' $|H_M + H_Q|\Psi m$ '〉 の行列要素は表3のようになる。ただし、縮退し た準位間の混合は無視できるものとする。即ち、  $\Psi_{32}$ 'または $\Psi_{-32}$ 'と $\Psi_{12}$ 'または $\Psi_{-12}$ 'との混合を無 視できるものとする。表3の二次方程式の解はつ ぎのようになる。

т	3/2	- 1/2	1/2	- 3/2
3/2	$3B\cos\theta$	0	$\sqrt{3}B \sin \theta e^{-i\varphi}$	0
-1/2	0	$-B\cos\theta$	$2B\sin\theta e^{i\varphi}$	$\sqrt{3}B\sin\theta e^{-i\varphi}$
1/2	$\sqrt{3}B\sin\theta e^{iarphi}$	$2B \sin \theta e^{-i\varphi}$	$B\cos\theta$	0
- 3/2	0	$\sqrt{3}B \sin \theta e^{i\varphi}$	0	$-3B\cos\theta$

## 表2 磁場の相互作用による行列要素

т	3/2	-3/2	-1/2	1/2
3/2	$3A\rho + \left(1 + \frac{2}{\rho}\right)B\cos\theta$	$\left(\frac{\rho-1}{\rho}e^{i\varphi}+\frac{\eta}{\rho}e^{-i\varphi}\right)B\sin\theta$	0	0
- 3/2	$\left(\frac{\rho-1}{\rho}e^{-i\varphi}+\frac{\eta}{\rho}e^{i\varphi}\right)B\sin\theta$	$3A\rho - \left(1 + \frac{2}{\rho}\right)B\cos\theta$	0	0
- 1/2	0	0	$-3A ho + \left(1 - \frac{2}{ ho}\right)B\cos\theta$	$\left(\frac{\rho+1}{\rho}e^{i\varphi}-\frac{\eta}{\rho}e^{-i\varphi}\right)B\sin\theta$
1/2	0	0	$\left(\frac{\rho+1}{\rho}e^{-i\varphi}-\frac{\eta}{\rho}e^{i\varphi}\right)B\sin\theta$	$-3A ho - \left(1 - \frac{2}{ ho}\right)B\cos\theta$

表3 磁場の相互作用を含めた核四極相互作用の行列要素

$$E_{\pm 3/2}' = 3A\rho \pm \frac{B}{\rho} \Big[ (\rho - 1 + \eta)^2 \sin^2 \theta \, \cos^2 \varphi + (\rho - 1 - \eta)^2 \sin^2 \theta \, \sin^2 \varphi + (\rho + 2)^2 \cos^2 \theta \Big]^{1/2}$$
(13)

$$E_{\pm 1/2}{}' = -3A\rho \pm \frac{B}{\rho} \Big[ (\rho + 1 - \eta)^2 \sin^2 \theta \, \cos^2 \varphi + (\rho + 1 + \eta)^2 \sin^2 \theta \, \sin^2 \varphi + (\rho - 2)^2 \cos^2 \theta \Big]^{1/2}$$
(14)

エネルギー準位は分裂しており,

 $\Psi_{32'} \leftrightarrow \Psi_{-12'}, \Psi_{32'} \leftrightarrow \Psi_{12'}, \Psi_{-32'} \leftrightarrow \Psi_{-12'}, \Psi_{-32'}$   $\leftrightarrow \Psi_{12'}$ の遷移による、4本の共鳴線がえられるこ とになる。 $\Psi_{32'} \leftrightarrow \Psi_{12'}$ と $\Psi_{-32'} \leftrightarrow \Psi_{-12'}$ との遷移に よる共鳴線の周波数が一致する状態を零分離の状 態という。これは縮退した順位間の分裂が等しい 状態である。即ち、

$$\frac{B}{\rho} \Big[ (\rho - 1 + \eta)^2 \sin^2 \theta \cos^2 \varphi + (\rho - 1 - \eta)^2 \sin^2 \theta \sin^2 \varphi + (\rho + 2)^2 \cos^2 \theta \Big]^{1/2} \\ = \\ \frac{B}{\rho} \Big[ (\rho + 1 - \eta)^2 \sin^2 \theta \cos^2 \varphi + (\rho - 2)^2 \cos^2 \theta \Big]^{1/2}$$
(15)

だから、整理して

 $\eta \sin^2 \theta \cos 2\varphi - 3\sin^2 \theta + 2 = 0 \tag{16}$ 

 $\sin^2\theta = 2/(3 - \eta \cos 2\varphi) \tag{17}$ 

 $X = \sin \theta \cos \varphi, Y = \sin \theta \sin \varphi, Z = \cos \theta$ を(16)式に代入して, 直交座標に変換する。

 $(\eta - 1)X^{2} + (-\eta - 1)Y^{2} + 2Z^{2} = 0$ <sup>(19)</sup>

(19)式が,電場勾配主軸系での零分離曲線となる。 次に,実験で得られた零分離曲線(実験室系)を 主軸系に変換する。

$$\begin{pmatrix} \mathbf{X} \\ \mathbf{Y} \\ \mathbf{Z} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \lambda_1 & \lambda_2 & \lambda_3 \\ \mu_1 & \mu_2 & \mu_3 \\ \nu_1 & \nu_2 & \nu_3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \mathbf{x} \\ \mathbf{y} \\ \mathbf{z} \end{pmatrix} = \mathbf{H} \begin{pmatrix} \mathbf{x} \\ \mathbf{y} \\ \mathbf{z} \end{pmatrix}$$
(20)

ここで, **H** は変換行列とする。また, λ, μ, ν は 方向余弦(線形独立)である。

 $\mathbf{X} = \lambda_1 \mathbf{x} + \mu_1 \mathbf{y} + \nu_1 \mathbf{z}$ 

$$Y = \lambda_2 x + \mu_2 y + \nu_2 z$$
 を(19)式に代入すると,

 $Z = \lambda_3 x + \mu_3 y + \nu_3 z$ 

$$(x \ y \ z) \begin{pmatrix} a & b & d \\ b & e & c \\ d & c & f \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = 0$$
 (20)

となり,実験室系での零分離曲線が得られる。係 数行列を GA とすると, trGA = 0 であるから,

$$a + e + f = (\eta - 1) \left( \lambda_1^2 + \mu_1^2 + \nu_1^2 \right) + (-\eta - 1) \left( \lambda_2^2 + \mu_2^2 + \nu_2^2 \right) + 2 \left( \lambda_3^2 + \mu_3^2 + \nu_3^2 \right) = 0$$

また,(19)式から主軸系での*2*の係数は2だから, f=2とすると, e=-2-aである。 零分離曲線は

$$a (x^{2} - y^{2}) + 2bxy + 2cyz + 2dxz = 2(y^{2} - z^{2})$$
(21)

と変形できる。

#### 3. ゼーマン効果の測定

単結晶をゼーマン効果測定用のゴニオメーター に固定する。結晶を取り付けた軸の回転角度をΦ (測定範囲0~360°)とする。結晶を取り付けた 軸と垂直な方向の磁場(約0.012T)を与えるへ ルムホルツ型電磁石の回転角度をΘ(測定範囲0 ~90°)とする。零分離状態となる(Θ,Φ)を測 定する。電場勾配の性質上,測定点(Θ,Φ)と (90-Θ,180+Φ)は等価であるが,実験では誤 差が生じる。

#### 4. 解析法

 ①最小二乗法で係数。(21)式の係数。a. b. c. d を決定する。 ・ゼーマン効果のn個の測定点(Θ,Φ): PHI(I). THETA(I) I = 1. ..., n ・極座標系から直交座標系に変換したときの  $x_i$ ,  $y_i$ ,  $z_i$ の値を計算する。  $RR(1, I) = x_i, RR(2, I) = y_i, RR(3, I) = z_i$  $AMN(I, 1) = x_i^2 - y_i^2$  i = 1, ..., n $AMN(I, 2) = 2x_iy_i$  $AMN(I, 3) = 2v_i z_i$  $AMN(I, 4) = 2x_i z_i$  $AMN(I, 5) = 2(y_i^2 - z_i^2)$ とすると観測方程式は.  $(x_{i}^{2} - y_{i}^{2})$  $2x_iy_i$  $2y_i z_i$  $2x_i z_i \setminus a$ | b  $x_n^2 - y_n^2$  $2x_n v_n$  $2x_n z_n$  $2v_n z_n$ (22)

これを行列で*A*・X = *M*と表し, *A*<sup>T</sup>を *A* の転置 行列とすると,

 $A^{\mathrm{T}} \cdot A \cdot X = A^{\mathrm{T}} \cdot M$ 

の正規方程式を得る。これから  $(A^{T} \cdot A)^{-1}$ を $A^{T} \cdot A$  の逆行列とすると,

$$X = (A^{\mathrm{T}} \cdot A)^{-1} \cdot A^{\mathrm{T}} \cdot M$$

から, 最小二乗法によって係数*a*, *b*, *c*, *d* が得 られる。

②係数行列を対角化し,固有値・固有ベクトルを

もとめる。

$$GA = egin{pmatrix} a & b & d \ b & -2-a & c \ d & c & 2 \end{pmatrix}$$
の行列を対角化する。

非対角要素が1.0×10<sup>-10</sup>以下であることを確認す る。得られた固有値は(19)式の係数 $\eta$ -1,  $-\eta$ -1, 2になっているので,絶対値の小さい順, $E_{min}$ ,  $E_{mid}$ , $E_{max}$ に固有値を並べ替える。  $\eta = \frac{E_{min} - E_{mid}}{E_{max}}$ で非対称定数 $\eta$ が求められる。  $E_{min}$ , $E_{mid}$ , $E_{max}$ の固有値ベクトルは、変換行列  $H の (\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3) (\mu_1, \mu_2, \mu_3) (\nu_1, \nu_2, \nu_3)$ に相 当する。変換後の座標を使って,主軸系における 測定点の ( $\Theta^*$ ,  $\Phi^*$ )を計算する。非対称定数 $\eta$ と $\Phi^*$ を(16)式に代入して計算した $\Theta_{cal}$ と $\Theta^*$ の差か ら、標準偏差を計算する。

#### 3. エクセルの使用 [1]

#### Sheet 1

測定データ (Θ, Φ) 単位 (°) データ数n I,*i*=1...n

①データ処理

エクセルではラヂアン単位なので, PAI= 3.14159265/180を使って換算する。 ・次の計算をする。

 $TH(I) = \Theta_i$   $PH(I) = \Phi_i$   $YH(I) = \sin(\Theta_i)$   $RR(1, I) = \sin(\Theta_i) \times \cos(\Phi_i) = x_i$   $RR(2, I) = \sin(\Theta_i) \times \sin(\Phi_i) = y_i$   $AMN(I, 1) = x_i^2 - y_i^2$   $AMN(I, 2) = 2x_iy_i$ 

- 4	Α	в	с	D	E	F	G	н	I	3	к	L	м	N
1	(1)データ	コピー張り付け(最	大データ数75)				PAI	0.0174533	BB	a(x^2-y^2)	b(2xy)	c(2yz)	d(2xz)	2(y^2-z^2)
2		2-(phi)	2-(theta)	TH	PH	G	RR(1,1)	RR(2,1)	RR(3,1)	AMN([,1 ))	AMN(1,2)	AMN(L3)	AMN(I,4)	AMN(15)
3	1	360	176	3.07178	6.28319	0.069756	0.069756	-0.000000	-0.997564	0.004866	-0.000000	0.000000	-0.139173	-1.990268
4	2	350	176.4	3.07876	6.10865	0.062791	0.061837	-0.01 0903	-0.998027	0.003705	-0.001348	0.021764	-0.123429	-1.991877
5	3	340	176	3.07178	5.93412	0.069756	0.065550	-0.023858	-0.997564	0.003728	-0.003128	0.047600	-0.130780	-1.989130
6	4	330	175.8	3.06829	5.75959	0.073238	0.063426	-0.036619	-0.997314	0.002682	-0.004645	0.073042	-0.126512	-1.986590
7	.5	325	175.4	3.06131	5.67232	0.080199	0.065695	-0.046000	-0.996779	0.002200	-0.006044	0.091704	-0.130967	-1.982904
8	6	320	175.1	3.05607	5.58505	0.085417	0.065433	-0.054905	-0.996345	0.001267	-0.007185	0.109409	-0.130388	-1.979379
9	7	315	175.1	3.05607	5.49779	0.085417	0.060399	-0.060399	-0.996345	-0.000000	-0.007296	0.120356	-0.120356	-1.978112
10	8	310	174.7	3.04909	5.41052	0.092371	0.059375	-0.070760	-0.995725	-0.001 482	-0.008403	0.140915	-0.118242	-1.972921
11	9	305	174.1	3.03862	5.32325	0.102793	0.058959	-0.084203	-0.994703	-0.003614	-0.009929	0.167513	-0.117294	-1.964687
12	10	300	172.8	3.01593	5.23599	0.125333	0.062667	-0.108542	-0.992115	-0.007854	-0.013604	0.215372	-0.124345	-1.945021
13	11	295	171.6	2,99498	5.14872	0.146083	0.061737	-0.132396	-0.989272	-0.01 371 7	-0.016348	0.261952	-0.122150	-1.922262
14	12	290	168.8	2,94612	5.06145	0.194234	0.066432	-0.182521	-0.980955	-0.028901	-0.024250	0.358089	-0.130334	-1.857919
15	13	287	167.2	2.91819	5.00909	0.221548	0.064775	-0.211868	-0.975149	-0.040692	-0.027447	0.413206	-0.126330	-1.812057
16	14	285	164.9	2 87805	4.97419	0.260505	0.067424	-0.251628	-0.965473	-0.058771	-0.033931	0.485880	-0.130191	-1.737641

図1a 測定点を処理したエクセルのシート

	0	P	Q	R	s	т	U	v	w	x
1	AMN(I,1)*AMN(I,1)	AMN(I,1)*AMN(I,2)	AMN(I,1)#AMN(I,3)	AMN(I,1)*AMN(I,4)	AMN(1,2)*AMN(1,2)	AMN(I,2)*AMN(I,3)	AMN(1,2)*AMN(1,4)	AMN(I,3)*AMN(I,3)	AMN(1,3)*AMN(1,4)	AMN(I,4)*AMN(I,4)
2	AA(1,1)	AA(1,2)	AA(1,3)	AA(1,4)	AA(2,2)	AA(2,3)	AA(2,4)	AA(3,3)	AA(3,4)	AA(4,4)
3	2.36776E-05	-5.62036E-17	8.03749E-16	-0.000677212	1.33411E-28	-1.90786E-27	1.6075E-15	2.72837E-26	-2.29883E-14	0.01936915;
4	1.37261 E-05	-4.9959E-06	8.06326E-05	-0.00045729	1.81836E-06	-2.93479E-05	0.00016644	0.000473667	-0.002686298	0.01523475
5	1.38946E-05	-1.1659E-05	0.000177431	-0.000487488	9.78302E-06	-0.0001 48882	0.000409051	0.00226576	-0.006225125	0.01710339;
6	7.19268E-06	-1 24581 E-05	0.000195891	-0.000339294	2.1578E-05	-0.000339294	0.000587674	0.005335063	-0.0092406	0.01600518
7	4.83924E-06	-1.32957E-05	0.000201733	-0.000288105	3.65297E-05	-0.000554257	0.000791562	0.008409639	-0.012010209	0.01715235
8	1.60515E-06	-9.10327E-06	0.0001 3861 5	-0.000165195	5.16272E-05	-0.000786123	0.000936865	0.011970232	-0.01 4265567	0.01700104
9	2.2966E-28	1.10568E-16	-1.82394E-15	1.82394E-15	5.32324E-05	-0.000878126	0.000878126	0.014485637	-0.014485637	0.01448563
10	2.19521 E-06	1 24496E-05	-0.000208783	0.00017519	7.06054E-05	-0.001184066	0.000993549	0.019857012	-0.016662011	0.01398108
11	1.30602E-05	3.58826E-05	-0.000605375	0.000423888	9.85866E-05	-0.001 663253	0.001164623	0.028060725	-0.019648331	0.0137579

#### 図1b 測定点を処理したエクセルのシート

	Y	Z	AA	AB
1	AMN(I,1)*AMN(I,5)	AMN(I,2)*AMN(I,5)	AMN(I,3)*AMN(I,5)	AMN(I,4)*AMN(I,5
2	AN(1)	AN(2)	AN(3)	AN(4)
3	-0.009684576	2.29883E-14	-3.28748E-13	0.276991779
4	-0.007379662	0.002685977	-0.043350986	0.245855657
5	-0.007414572	0.006221565	-0.094682579	0.260138248
6	-0.00532787	0.009228142	-0.1 451 03572	0.25132676
7	-0.004362049	0.01198463	-0.181840411	0.259695021
8	-0.002507766	0.01 4222247	-0.216560978	0.258087323
9	2.99774E-14	0.01 4432404	-0.238078205	0.238078205
10	0.002923125	0.01 6577867	-0.278014042	0.23328148
11	0.0071 001 62	0.019507535	-0.329111351	0.230446249

図1c 測定点を処理したエクセルのシート

		AA(1,1)	AA(1,2)	AA(3,1)	AA(4,1)		X(1)		AN(1)
		AA(1,2)	AA(2,2)	AA(3,2)	AA(4,2)		X(2)		AN(2)
		AA(1,3)	AA(2,3)	AA(3,3)	AA(4,3)	×	X(3)	=	AN(3)
		AA(1,4)	AA(2,4)	AA(3,4)	AA(4,4)		X(4)		AN(4)
						AN(auto)			
AA(auto)		8,941773	0.984325	-0.884971	7.430277		-2.325810		
		0.984325	14,857622	-2.046412	-1.655004	1	-1.8329387	1	
		-0.884971	-2.046412	9.835417	0.138028		-1 269257	1	
		7.430277	-1.655004	0.138028	7.155757		5.83407896		
AA (auto)		24.00955							
AA-1(auto)		1.4765866	-0.261687	0.100806021	-1.595702				
		-0.261687	0.1174902	-0.00329597	0.2989631	1			
		0.100806	-0.003296	0.111567777	-0.107588	1			
		-1.595702	0.2989631	-0.10758764	1.8678866		2 2	-	
650//>	★ 19 + /n \$2		C1(-++-)					-	
ANA (auto)	-1.2.3020042E		GA(auto)	-10 2020042	01416201	1410707250	1	-	
	-12.33200425			-12.5520042	2.1410331	-0.00760734	-	-	
	2.141039000			141030050	-0.007607	-0.99709734	-		
	-0.337037333			14.19727352	-0.537637				
	14.10727002		約款(体内) 暴-	t (d(outo)					
			キロメリー語のと見た。	26.07393197	1		-	-	
	D109 L			20.07303107	-				
3	11.45168854								
			3 GA	(auto)				1	
				11.45168854	0	0			
				0	11.451689				
				0	0	11.45168854			
			λ GA=GA	(auto)					
				23.84369279	-2.141639	-14.1972735			-
				-2.14163906	1.0596843	0.997697339			
				-14.1972735	0.9976973	9.451688545			
f( ) )	1880665301								

図2 行列の計算

 $AMN(I, 3) = 2y_i z_i$  $AMN(I, 4) = 2x_i z_i$  $AMN(I, 5) = 2(y_i^2 - z_i^2)$ 

## Sheet 2

②行列計算

・行列の積  $A^{\mathrm{T}} \cdot A$  の計算。 得られた行列を AA とする。(図 1 b) AA (K,J) =  $\sum_{I=1}^{N} AMN(I,K) \times AMN(I,J)$  K, J = 1 ... 4

・行列の積 A<sup>T</sup>・M の計算。
 得られた行列を ANとする。(図1c)

$$AN(\mathbf{K}) = \sum_{I=1}^{N} AMN(I, K) \times AMN(I, 5)$$
 K = 1 ... 4

- ・逆行列  $(A^{T} \cdot A)^{-1}$  の計算 Excel 関数 MINVERSE(AA)を実行する。 得られた行列を $AA^{-1}$ とする。(図2)
- ・行列の積  $(A^{\mathsf{T}} \cdot A)^{-1} \cdot A^{\mathsf{T}} \cdot M$  の計算 Excel 関数 MMULT  $(AA^{-1}, AN)$  を実行する。

得られた行列をANX(K) K=1...4とする。

#### ③固有値・固有ベクトルをもとめる、対角化

・係数行列 GA の固有値・固有ベクトルを求める。

$$\boldsymbol{GA} = \begin{pmatrix} ANX(1) & ANX(2) & ANX(4) \\ ANX(2) & -2 - ANX(1) & ANX(3) \\ ANX(4) & ANX(3) & 2 \end{pmatrix}$$

は3次の正方行列で、λを固有値行列とする

 $GA \cdot GH = \lambda$ 

変換行列 GH が存在する。固有値  $\lambda$  を求める ため、特性方程式  $|\lambda I - GA| = 0$ を、

- 数値計算法(ニュートン法)で解く。ここで*I* は単位行列である。詳細は[1]を参照のこと。 (図 3 a)
- ・固有値を絶対値の小さいほうから並べて、
   *E*<sub>min</sub>, *E*<sub>mid</sub>, *E*<sub>max</sub> として、電場勾配の非対称定数 η を求める。
- ・それぞれの固有値に対応する固有ベク

$$(l_{\min}, m_{\min}, n_{\min}), (l_{\min}, m_{\min}, n_{\min}),$$

$$(l_{\max}, m_{\max}, n_{\max})$$
を求めて,変換行列

 $GH = egin{pmatrix} l_{\min} & l_{\min} & l_{\max} \ m_{\min} & m_{\min} & m_{\max} \ n_{\min} & n_{\min} & n_{\max} \end{pmatrix}$ 

(23)

	(3)ニュートン法による	る固有値の決定					
	グラフからF(X)= 0とな	よるXの値を読み取る	手作業				
	2日第日(曲1	-22	10.00				
	初期値2	8					
	27.88(書)3	13					
	初期储1态D109へ数	値コピーする					
	Δ ( 入力 )	0.00001					
	( 2 + A)GA-GA(auto)						
		23.84370279	-2141639058	-1419727352			
		-2.141639058	1.059694297	0.997697339			
		-1419727352	0.997697339	9.451698545			
	(A-A)GA-GA(auto)	.4.10727302	0.007007000	0.401000040			
	A REPORT OF LEGISLA	23 84368279	-2141639058	-1419727352			
		-2141639058	1.059674297	0.997697339			
		-1419727352	0997697339	9.451678545		Vach(auto)	
		11.10727002	0.007007000	0.401070040		0.511.0039.03	
	$f(3 \pm \Lambda)$	18 8071 8803	1			0.261942451	
	f( ) = ()	18 80611801				0.81.8694792	
	6(2)	53 5011 5752				0010034782	
	15.57	0000110102					
	6(2)	18,90665301					
nurror → P146	21	11 10016993			因有値に対応す	る因素べクトルをTt	81~T183をコピー
Dontel + A	10.1	11.10010000	羊作業		-0014015060	1069147015	11.45168954
venni ve	因有值1	-2214315869	はられた 因素値1巻0	1481.5 TF -	民権へのトル1	因有値べりトルク	因海俑へりトルス
	国友健な	1069147015	場合わた国友信OをD	1401C 1E	0.949961994	0.295006229	0.444975698
	因有值3	11 45168854	はられた 因素値3をP	850LTHY -	-0.072763773	-0.769625196	0.63433626
	CLUM INCO	11.10100001	社べ様々	Tooleand	-0523420465	0.570861818	0.692572369
	EMIN	1069147015	絶対値の最小のもの	1	1069147015	11 45168854	-2214315869
	EMAY	11.45168854	MOLT HE V AX 1 VV VVV		0.285096228	0.444375638	0.949961994
	ENEG	-2214315869	絶対値 最大のもの		-0.769625196	0.63433626	-0.072763773
	ota	0.034331976	MUCTINE AX7102 002		0.570861818	0.632572369	-0.523420465
	(3)固有値ペクトルの	決定			0.070001010	0.002072000	0.020420400
	and the second						
	(SA(auto)					Vecti (auto)	
		-1239200425	2.141639058	14.19727352		-23,84369279	
		I 2.141639058	10.39200425	-0.997697339		2.141639058	

図3a 固有値を求めるシート

eta	0.004001370			0.070001010]	0.0020720081	=0.020420400j		
(3)固有値ベクトル。	の決定							
00/ 13				26.1.1				_
GH(auto)	10 00000405	0.141000050	14 10303050	Vecb	(auto)			
	-12.39200425	2.141039008	14.19727352		23.84369279			_
	2.141639058	10.39200425	-0.997697839		2.141639058			
	14.19727352	-0.997697339	2					-
				MatB2	(auto)			
					2.141639058	14.19727852		_
					1.059684297	-0.997697339		-
λGA(auto)				MatB	2 (auto)			-
	11.45168854	0	0		12.90792023			
	0	11.45168854	0					
	0	0	11.45168854	InVB2	(計算)			
					0.077293423	-1.099888539		
GA- A GA(auto)					0.082095665	0.165916664		
	-23.84369279	2.141639058	14.19727352		-			
	2.141639058	-1.059684297	-0.997697339	Vech	(計算)			
	14,19727352	-0.997697339	-9.451688545		0.512603621			
					1.602130213			
GB(auto)	-23.84369279	2.141639058	14.19727352					
	2.141639058	-1.059684297	-0.997697339	11/12	(auto)			
					1.956932215			
GBT(計算)	=TRANSPOSE(0157:Q158)							
	-23.84369279	2.141639058		Vech(	auto)			
	2.141639058	-1.059684297			0.511003903			
	14.19727352	-0.997697339			0.261942451			
					0.818694792			
MatBTB(計質)	573,1083038	-53,33404506						
	-53,33404506	5,709548666		Mat A*	vech(計質)		λ*vech	
					5.851857545		5.851857545	
BTB (auto)	427.6693893				2.999683367		2,999683367	
					8.630912483		9.375437777	

図3b 固有ベクトルの決定

行列の対角化の確認		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
GA(auto)	-12.39200425	2.141639058	14.19727352
	2.141639058	10.39200425	-0.997697339
	14.19727352	-0.997697339	2
GH(auto)			
	0.285996228	0.444375638	0.848961984
	-0.769625196	0.63433626	-0.072763773
	0.570861818	0.632572369	-0.523420465
TGH(計算)			
	0.285996228	-0.769625196	0.570861818
	0.444375638	0.63433626	0.632572369
	0.848961984	-0.072763773	-0.523420465
GH*TGH(計算)			
	1	1.80411E-16	-3.88578E-16
	1.80411E-16	- 1	6.93889E-18
	-3.88578E-16	6.93889E-18	1
固有値(auto)		0	
	10.69147015		
	11.45168854		
	-22.14315869		
TGH*GA(計質)			
	2.912355529	-7.954994931	5.969943316
	4.832617461	6.912601564	6.941191614
	-18.10731776	1.584223907	11.07870079
TGH*GA*GH(計算)			
	10.36329992	0.024459295	-0.073475929
	0.024459295	10.92321731	-0.033440207
	-0.073475929	-0.033440207	-21.28651723

図4 対角化の確認

					-						
					固有ベクトル1	固有値ベクトル2	固有値ベクトル3				
					0.285996228	0.444375638	0.848961984				
					-0.769625196	0.63433626	-0.072763773				
					0.570861818	0.632572369	-0.523420465				
EMIN		10.69147015	固有値の正で小	2乗和	1	1	1				
EMAX		11.45168854	固有値の正で大								
ENEG		-22.14315869	固有値のうち負								
eta		0.084331976									
H(Auto)		0.285006228	-0.769695196	0.570861818							
11(14010)		0.444375638	0.63433626	0.632572369							
		0.848961984	-0.072763773	-0.523420465							
HEN(atute	a)	1	0	0							
		0	1	0							
		0	0	1							
NewHen	H*HEN	0.285996228	-0.769625196	0.570861818							
(Auto)		0.444375638	0.63433626	0.632572369							
		0.848961984	-0.072763773	-0.523420465							
NewH		0.285996228	0.444375638	0.848961984							
(Auto)		-0.769625196	0.63433626	-0.072763773							
		0.570861818	0.632572369	-0.523420465							
大赦75)					0.017453293						
2-(phi)		2-(theta)	TH	PH	G	RR(1,I)	RR(2,I)	RR(3,1)	NewRR(1,I)	NewRR(2,1)	NewRR(3,I)
	360	176	3.07178	6.2831.9	0.069756	0.069756	-0.000000	-0.997564	-0.54952114	-0.600033377	0.581366033
	350	176.4	3.07876	6.10865	0.062791	0.061837	-0.01 0903	-0.998027	-0.54365874	-0.61 0761 91 7	0.575677905
	340	176	3.07178	5.93412	0.069756	0.065550	-0.023858	-0.997564	-0.53236247	-0.61703686	0.579530601
	330	175.8	3.06829	5.75959	0.073238	0.063426	-0.036619	-0.997314	-0.52300614	-0.625917372	0.578525732
	325	175.4	3.06131	5.67232	0.080199	0.065695	-0.046000	-0.996779	-0.51483153	-0.630521072	0.580854266
	320	175.1	3.05607	5.58505	0.085417	0.065433	-0.054905	-0.996345	-0.50780563	-0.636011796	0.581 052873

図5 変換行列

を得る。(図3b)

- ・Excel 関数 TRASPOSE(GH)を実行して、転置 行列 TGH を得る。
- ・行列 GA を対角化するため, Excel 関数 MMULT(TGH, GA)を実行,得られた行列を TGH・GA とする。
- ・さらに, MMULT(*TGH*・*GA*, *GH*)を実行する。
   非対角要素が1.0×10<sup>-10</sup>以下であることを確認
   する。(図4)

Sheet 3 (繰り返しが必要な場合, Sheet 4, Sheet 5...を追加)

Sheet 2 で固有値を求めているが、 |Emax| が正確

に2.000となっていないので、変換行列 H を用い て、座標を変換して Sheet 2 の作業を繰り返す。 変換行列は次のようになっている。

$$\boldsymbol{H} = \begin{pmatrix} l_{\min} & m_{\min} & n_{\min} \\ l_{\min} & m_{\min} & n_{\min} \\ l_{\max} & m_{\max} & n_{\max} \end{pmatrix} = \boldsymbol{T}\boldsymbol{G}\boldsymbol{H}$$
(24)

・(24式の変換行列を用いて、(20)式から得られた新
 座標に対して、Sheet 2の手順を繰り返す。

繰り返し

・行列 GA を対角化して、|Emax| が正確に2.000
 となっていること、非対角要素が1.0×10<sup>-10</sup>以下であることを確認する。新しい行列 newGH



図6 電場勾配主軸の決定および標準誤差の計算

表4 計算結果の比較

	η	$\Phi_{Z}$	Θz	$\Phi_{\mathrm{Y}}$	$\Theta_{\mathrm{Y}}$	$\Phi_{X}$	Θx	標準偏差
Excel 2013	0. 0343	- 4. 899	121.56	55. 78	128.56	- 68. 90	54.48	0.0218
Fortran 95	0. 0343	-4.900	121.57	55. 56	128.75	- 69. 09	54.68	0.0213



図7 零分離曲線(4本の共鳴線の2回対称を示す零分離曲線のみ示している。) 図中の◇は電場勾配のZ主軸方向を示す。

が得られ,転置行列を newTGH とする。新し い変換行列 newH は25式の変換行列を oldH と すると,次のようになる。

 $newH = newTGH \cdot oldH \qquad (\boxtimes 5)$ 

- Sheet 4 (繰り返しがあった場合, Sheet 5 ...) 前のシートで固有値を求め | Emax | が正確に 2.000となっているとする。
- ・測定データ(Θ, Φ)から直交座標に変換する。
- ・変換行列 newH を用いて主軸座標系に変換する。
- ・主軸系における極座標 ( $\Theta^*$ ,  $\Phi^*$ )をもとめる。 得られた  $\Phi^*$ を(23)式に代入して, 理論値  $\Theta_{cal}$ を 求める。
- ・理論値 Θ<sub>cal</sub> と Θ\*との誤差を求め、標準偏差を 計算する。(図 6)

こうして,計算精度が見かけ上15桁といわれてい るエクセルを利用して得られた結果は,Fortran 95 for Windows での倍精度計算の結果とほとん ど誤差はない。(表4) 最後に,Zeeman 効果の 解析例を図6に示す。

# §I 分子軌道法による電場勾配主軸方向の決定

#### 1. 核外電子による電場勾配

電場勾配が原子価 p 軌道によって生じるとす る扱いに準じる [2]。すなわち,電場勾配主軸系 における X, Y, Z 軸方向の成分 qxx, qyy, qzz は 次のようにあらわされる。

$$\frac{q_{XX}}{q_0} = \rho_X - \frac{1}{2} \left( \rho_Y + \rho_Z \right) \tag{25}$$

$$\frac{q_{YY}}{q_0} = \rho_Y - \frac{1}{2}(\rho_X + \rho_Z)$$
(26)

$$\frac{q_{ZZ}}{q_0} = \rho_Z - \frac{1}{2} (\rho_X + \rho_Y)$$
(27)

 $\eta \frac{q_{ZZ}}{q_0} = \frac{3}{2} \left( \rho_X - \rho_Y \right) \tag{28}$ 

ここで,  $\rho_{x}$ ,  $\rho_{y}$ ,  $\rho_{z}$  は主軸方向における原子価  $p_{x}$ ,

p<sub>y</sub>, p<sub>z</sub>軌道(例えば<sup>81</sup>Brや<sup>79</sup>Brでは4p原子軌道, <sup>127</sup>Iでは5p軌道にあたる)から生じる電子密度(数)である。ここで,主軸系において|q<sub>zz</sub>|>

 $|q_{YY}| > |q_{XX}| また q_{XX} + q_{YY} + q_{ZZ} = 0 が成り立つ。q_0$ は原子価p軌道に電子が1個存在するときの電 場勾配にあたる。(<sup>81</sup>Br の場合  $e^2Qq_0/h = -643.032$ MHz, <sup>79</sup>Br の場合  $e^2Qq_0/h = -769.756$ MHz, <sup>127</sup>I の場合  $e^2Qq_0/h = 22912.712$ MHz)。 $\eta$  は電場勾配 の非対称定数である。これらの電子密度  $\rho_{X}$ ,  $\rho_{Y}$ ,  $\rho_{Z}$ を見積もるために分子軌道法を用いる。

#### 2. 分子軌道法の利用

既知の結晶構造から,計算対象となる構造を取 り出す。鎖状構造の化合物では繰り返し単位に注 意し,対象原子が中心付近になるようにまた三次 元的に対称になるように構造を取り出す(この際 原子数はかなり多くなるが,これを1つの分子と して計算する)。分子軌道法の計算に必要な直交 座標に変換して,全電荷に注意して分子軌道法の 計算を実行する。構造最適化は行わない。分子軌 道法のプログラムにはいろいろあるが,占有分子 軌道を原子価p軌道の関数の一次式として表現 するものが必要である。

 $i 個 の占有分子軌道を <math>\Psi i = \sum_{j} C_{ij} p_{j} + etc$  とする。ここで、 $p_{j}(j=x, y, z)$  は原子価 p 電子軌道である。原子価 p 電子による密度行列の対角項を

$$\rho_{jj} = \sum_{i} \left( 2 \times \sum_{i} C_{ij}^{2} \right), \quad 非対角項を$$

$$\rho_{jk} = \sum_{i} \left( \sum_{j,k} C_{j} C_{k} \right) \quad (j, k = x, y, z) \quad とする。$$

即ち、重なり積分を $S_{jj} = \int p_j p_j dt = 1$ および  $S_{jk} = \int p_j p_k dt = 0.5$ として対角項と非対角項を見 積もる。密度行列は次のような要素を持つことに なる。

$$\boldsymbol{GB} = \begin{pmatrix} \rho_{xx} & \rho_{xy} & \rho_{xz} \\ \rho_{xy} & \rho_{yy} & \rho_{yz} \\ \rho_{xz} & \rho_{yz} & \rho_{zz} \end{pmatrix}$$
(29)

これを対角化して,固有値 $\rho_{x}$ , $\rho_{y}$ , $\rho_{z}$ を求める。 これを,(25)式から(28)式に代入し,電場勾配の成分  $q_{xx}$ , $q_{yy}$ , $q_{zz}$ を求める。臭素原子の場合,共鳴周 波数は $\nu = \frac{e^{2}Qq_{zz}}{2h} \left(1 + \frac{\eta^{2}}{3}\right)^{1/2}$ となる。また,電場

I1											
	s	Px	Py	Pz	S2	X2	Y2	Z2	2XY	2YZ	2XZ
1	0.00026	0.00016	0.00013	0.00004	6.76E-08	2.56E-08	1.69E-08	1.6E-09	4.16E-08	1.04E-08	1.28E-08
2	0.00025	0.00015	0.00013	0.00004	6.25E-08	2.25E-08	1.69E-08	1.6E-09	3.9E-08	1.04E-08	1.2E-08
3	-0.0031	-0.00342	-0.00234	0.00021	0.00000961	1.16964E-05	5.48E-06	4.41E-08	1.6E-05	-9.8E-07	-1.4E-06
4	0.00029	0.00019	0.00017	0.00006	8.41E-08	3.61E-08	2.89E-08	3.6E-09	6.46E-08	2.04E-08	2.28E-08
5	-0.00062	-0.00029	-0.00013	0.00097	3.844E-07	8.41E-08	1.69E-08	9.41E-07	7.54E-08	-2.5E-07	-5.6E-07
6	-0.00412	-0.00301	-0.00172	0.00639	1.69744E-05	9.0601E-06	2.96E-06	4.08E-05	1.04E-05	-2.2E-05	-3.8E-05
7	-0.00002	-0.00002	-0.00001	0	4E-10	4E-10	1E-10	0	4E-10	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0.00002	0.00002	0.00001	0	4E-10	4E-10	1E-10	0	4E-10	0	0
11	0.00051	0.00043	0.00032	0.00003	2.601E-07	1.849E-07	1.02E-07	9E-10	2.75E-07	1.92E-08	2.58E-08
12	0.00039	0.00013	0.00004	-0.00061	1.521E-07	1.69E-08	1.6E-09	3.72E-07	1.04E-08	-4.9E-08	-1.6E-07
13	-0.02608	-0.03657	-0.02009	0.00988	0.000680166	0.001337365	0.000404	9.76E-05	0.001469	-0.0004	-0.00072

図8 密度行列の計算シート

勾配の主軸系は密度行列を対角化する際の固有ベ クトルとして方向余弦が得られるので,各共鳴核 位置の電場勾配 Z 主軸の相互角が得られる。一 般に電場勾配の主な起因は原子価 p 電子による ものであるので,二次的な結合がなければ,電場 勾配 Z 主軸方向はほとんど結合方向に一致す る。

#### 3. 解析例

[C(NH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>]CdI<sub>3</sub>の結晶構造から,MercuryVer3.6
 [3]を用いて,陰イオンの鎖状構造の一部,[Cd<sub>5</sub>
 I<sub>16</sub>]<sup>6-</sup>を図9のように取り出す。量子化学計算パッケージWinGamess [4]を使い,PM3基底で1
 回ほど自己撞着場(1SCF)計算を行い,占有分子軌道中の5p軌道の係数を得る。計算支援ツールとしてFacio 19.1.4 [5]を利用した。密度行列の対角項,非対角項を前述のように求める。密度行列の対角化は§Iゼーマン効果の場合と同様



図9 [Cd<sub>s</sub>l<sub>16</sub>]<sup>6-</sup>の構造

### 表5 分子軌道法から求められた電場勾配 Z 主 軸の相互角

(カッコ内は結晶構造から求められた相互角).

	I1	I2	I3
I2	117.62 (117.37)		
I3	27.42 (27.25) <sup>#1</sup>	144. 51 (144. 22) <sup>#1</sup>	
I3'	91. 38 (91. 32) #1	34. 78 (34. 86) #1	114.00 (114.04) <sup>#1</sup>

#1 カッコ内はCd-I3(I3)-Cd面の垂直線とI1, I2, I3の電場勾配Z主軸のなす角度

である。対角化後の総p電子数は対角化前に WinGamessで計算された総p電子数と同じにな る。対角化の際に得られた固有値ベクトルから, 電場勾配Z主軸の相互角が得られる。得られた 相互角を表5に示す。括弧内に結晶構造から求め られた相互角を示しているが,よく一致してい る。この結果から,架橋位置にあるI3およびI3' 原子の電場勾配Z主軸はCd-I3-Cd'面または Cd-I3'-Cd'面の垂線方向を向くことがわかる。 関連して,Al<sub>2</sub>Br<sub>6</sub>中の架橋Br原子の電場勾配Z 主軸がAl-Br(架橋)-Al'面の垂線方向に向いて いることが,ゼーマン効果の実験から知られてい る。計算から得られた共鳴周波数は,計算モデル の総電荷に依存する。

#### 結 論

エクセルを用いた計算の精度は Fortran プログラ ムの倍精度計算に匹敵する。

#### 参考文献

- [1] 縄田和満 『Excel による線形代数入門』(朝倉書
   店) 7.4. Excel による固有値・固有ベクトルの計算
   pp. 139
- [2] "Nuclear Quadrupole Resonance" Fortshritte der chemischen Forschung, Topics in Current Chemistry (Springer Verlag, Berlin, Heidelberg, New York) 1972, E. A. C. Lucken, Nuclear Quadrupole Resonance, pp.155.
- [3] MERCURY 3.6 Windows, the Cambridge Crystallographic Data Centre (CCDC).
- [4] Windows Version GAMESS Ver.11. M. W. Schmidt, K. K. Baldridge, J. A. Boatz, S. T. Elbert, M. S. Gordon, J. H. Jensen, S. Koseki, N. Matsunaga, K. A. Nguyen, S. J. Su, T. L. Windus, M. Dupuis, J. A. Montgomery, J. Comput. Chem. **1993**, 14, 1347-1363.
- [5] FACIO 19. 1. 4., M. Suenaga, J. Comput. Chem. Jpn. 2005, 4, 25-32. M. Suenaga, J. Comput. Chem. Jpn. 2008, 7, 33-53.